

【オリコンサルグローバルが設計・施工監理 ラオスの2橋架け替え 安藤ハザマJVで起工】

オリコンサルグローバルが設計・施工監理 ラオスの2橋架け替え 安藤ハザマJVで起工

オリエンタルコンサルタンツグローバルがラオス・サバナケット県で設計・施工監理を担う国道9号線のセクムカーム橋とセタームアック橋の架け替え事業（発注IIラオス公共事業運輸省道路局）が起工した。施工は安藤ハザマ・JFEエンジニアリングJVが担当。19年6月末の完成を目指す。

起工式に出席した米澤社長（左端）、ブンチャン大臣（左から2番目）



指す。3日に現地で起工式が開かれ、ブンチャン交通公共事業相や引原毅駐ラオス日本大使、オリエンタルコンサルタンツグローバルの米澤栄二社長らが出席し、工事の安全を祈った。国道9号線は、インドシナ半島を横断する東西経済回廊の一部で、東端のベトナム国境からラオスの中南部を横断し、第2メコン国際橋が位置する西端のタイ国境までを接続する国際幹線道路。51橋が架かるが、その多くは劣化が顕著で、セクムカーム橋とセタームアック橋もその一つ。

今回のプロジェクトは、日本の無償資金協力で実施し、迂回（うかい）路建設から既存橋撤去、新橋建設、取り付け道路改修までを行う。セクムカーム橋は延長90㍎、幅員10・3㍎、セタームアック橋は延長160㍎、幅員11・8㍎。ラオスが抱える維持管理面の課題に配慮し、ライフサイクルコストの低減を図るため、橋梁形式はいずれも同国初の耐候性鋼とコンクリートの合成床版橋を採用する。鋼材重量は約1000ト（2橋梁分）。工事費は21億7000万円。